

## 平成31年度(2019年度)「長崎県教育委員会服務規律強化月間」実施結果報告書

所属名	佐世保市立大野中学校	作成者	職名	副校長
電話番号	(0956) 49-5158		氏名	榎尾 吉嗣
1 年間の実施内容(取組状況・実績等)				
4月	実施テーマ	○飲酒運転の根絶 ○体罰の禁止 ○情報セキュリティ対策の徹底		
○管理職による服務指導の徹底。 ○宣誓書を作成し、年間を通して職員が目につく場所に掲示。 ○懇親会等の平日開催自粛。余裕ある時間設定・自家用車を使用しないことの徹底。 ○各種データの保存状況等を把握し、情報管理体制の再確認。				
取組状況チェックリスト				
<input checked="" type="checkbox"/> 不祥事根絶に向けて職員の意識が維持・継続される心に届くような取組だったか。 <input checked="" type="checkbox"/> 職場の連帯強化と働きやすい職場環境づくりに繋がるような取組だったか。				
取組の評価・改善点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の職員会議における学校長講話で、公教育に携わる者としての心構え、責任感、使命について再認識し、思いを強くすることができた。</li> <li>・職員間で何でも話し、相談できる明るく働きやすい職場作りに努める。</li> <li>・宣誓書を拡大掲示し、常に目にすることで、不祥事に対する意識の継続が行えた。</li> </ul>				
7月	実施テーマ	○飲酒運転の根絶 ○体罰の禁止 ○セクハラ・わいせつ行為の禁止		
○懇親会等の平日開催自粛。余裕ある時間設定・自家用車を使用しないことの徹底。 ○生徒指導の在り方について共通理解(夏季休業前)。 ○体罰による処分等の記事を回覧し、職員への周知。 ○セクハラ・わいせつ行為の例を紹介し、絶対に禁止であることを繰り返し指導。				
取組状況チェックリスト				
<input checked="" type="checkbox"/> 不祥事根絶に向けて職員の意識が維持・継続される心に届くような取組だったか。 <input checked="" type="checkbox"/> 職場の連帯強化と働きやすい職場環境づくりに繋がるような取組だったか。				
取組の評価・改善点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・服務規律全般に関して、常に職場内で話題にすることで、職員同士、対生徒において良好な関係を構築するための言葉遣いや立ち振る舞いを意識することができた。</li> <li>・新聞記事、テレビニュース等で、全国及び身近で実際に起こっている事案を知り、あらためて日常の自分自身を振り返るきっかけとなった。</li> </ul>				
12月	実施テーマ	○飲酒運転の根絶 ○体罰の禁止 ○公金等の不正処理防止		
○懇親会等の平日開催自粛。余裕ある時間設定・自家用車を使用しないことの徹底。 ○交通安全県民運動の周知、徹底。 ○生徒指導の在り方について共通理解(冬季休業前)。 ○各種会計の処理体制を再確認。冬季休業前の監査の徹底。				
取組状況チェックリスト				
<input checked="" type="checkbox"/> 不祥事根絶に向けて職員の意識が維持・継続される心に届くような取組だったか。 <input checked="" type="checkbox"/> 職場の連帯強化と働きやすい職場環境づくりに繋がるような取組だったか。				
取組の評価・改善点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間通して、職場における懇親会等は必ず休日前日に実施することが徹底できた。</li> <li>・年末の交通安全県民運動と併せて、朝会、職員会議においても呼びかけを行い、飲酒運転の予防に努めた。(飲酒の帰りも複数で、それぞれが確認しあって など)</li> <li>・生活アンケートなどからも、日常の指導において、暴力だけでなく、強い言葉における指導にも注意を払う必要があることを再確認した。</li> <li>・諸表簿の点検に併せて、通帳等との照合も行った。</li> </ul>				

<b>2 服務規律委員会</b>	
委員会名	校内服務規律委員会
構成員	所属内委員（8名 構成員：校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭） 外部委員（2名 役職等：PTA役員、おやじの会役員）
活動内容 (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服務規律遵守に関する年間活動の計画立案、協議</li> <li>・ 服務に関する意見交換、相談窓口</li> <li>・ 目標達成状況の評価</li> </ul>
	<p><b>活動内容の評価・改善点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も活発な意見交換を行うとともに、外部委員の方からもご意見、助言を伺ったり、ご指摘を受けながら、さらに規律厳守、不祥事防止についての意識を高揚させ、取組を充実させたい。</li> </ul>
<b>3 年間を通しての計画の達成状況</b>	
<b>年間を通しての取組状況チェックリスト</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> 不祥事根絶に向けた職員の意識が維持・継続されるような心に届く取組ができたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 職場の連帯強化と働きやすい職場環境づくりに繋がるような取組ができたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 自己分析チェックシートは正直に回答できる環境下で実施されたか。	
<b>年間を通しての取組の評価・改善点</b>	
<p><b>【評価】</b>  日々の職員朝会、職員会議、校内研修において機会を捉え、服務規律の遵守において指導、通知の周知を行うことで、「不祥事を本校から絶対に出さない」という職員の意識は確実に高まっている。  強調月間の定期的な指導に加え、年末には全職員に「年末年始の綱紀肅正の徹底について」の文書を出し、さらに確認、意識の高揚に努めた。</p> <p><b>【改善点】</b>  不祥事の記事、ニュース等については、管理職より提供し県からの通知においても回覧、及び職員朝会や職員会議等で職員には周知、徹底し、根絶に向けての呼びかけは絶えず行ってきた。どうしても一方通行になりがちであり、職員自らが考え、動いてみるという取組までに至らなかったのは今後の課題である。  不祥事の要因となるストレスを溜めないため、また働き方改革を実践していくためにも、職員一人一人の業務の見直し等を積極的に進めていくことが急務である。</p>	
<p>■ 管理職員による職員に対する指導状況  (不祥事発生に伴う「綱紀の保持」の通知があった場合に全所属が記入します。)</p>	
<p>① 指導年月日：平成31年 4月25日（通知日：平成31年 4月19日）</p> <p>② 指導年月日：平成31年 4月25日（通知日：平成31年 4月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服務規律について校長指導及び不祥事防止について校長講話</li> <li>・ 飲酒運転防止について校長指導</li> <li>・ 通知文書を職員に回覧</li> </ul> <p>③ 指導年月日：令和 元年 7月11日（通知日：令和 元年 6月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員会議において通知文書の内容を盛り込んだ「夏季休業日における教職員の服務及び学校管理について」の文書を配付し校長指導</li> </ul> <p>④ 指導年月日：令和 元年 7月23日（通知日：令和 元年 7月18日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通知文書を職員に回覧</li> </ul> <p>⑤ 指導年月日：令和 元年 9月13日（通知日：令和 元年 9月 9日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通知文書を職員に回覧</li> </ul>	

- ⑥ 指導年月日：令和 元年10月11日（通知日：令和 元年10月11日）  
・ 終礼において通知文書の「不祥事防止のための教育長緊急メッセージ」について各自に文書を配付し校長が読み上げ指導
- ⑦ 指導年月日：令和 元年10月28日（通知日：令和 元年10月24日）  
・ 職員朝会において通知文書の「不祥事防止のための教育長緊急メッセージ」についてを再度提示し注意喚起。
- ⑧ 指導年月日：令和 元年11月19日（通知日：令和 元年11月15日）  
・ 通知文書を職員に回覧
- ⑨ 指導年月日：令和 元年11月28日（通知日：令和 元年11月27日）  
・ 職員会議において通知文書の内容を盛り込んだ「冬季休業日における教職員のサービス及び学校管理について」の文書を配付し校長指導

資料添付
------

有
---

（無）
-----

※様式枠の大きさは適宜変更してください。

※各所属で作成された資料等があれば、今後の取組の参考とするため、積極的に添付してください。また、添付資料を含め電子メールで送信されても結構です。